



## NEWS LETTER 2012 国際協同組合年

2012年4月23日

発行：2012 国際協同組合年（IYC）全国実行委員会

### 2012年は国際協同組合年

～見つめなおそう協同組合の役割と理念～

# Vol.4 住みよい地域づくりのために 子育て支援に取り組む協同組合

国連が2012年を国際協同組合年（IYC=International Year of Cooperatives）と宣言したことを受け、日本においても各協同組合の連携のもと2012 国際協同組合年全国実行委員会が設置され、協同組合の社会的認知度向上に向けた取り組みを進めています。このニュースレターでは、協同組合ならではの特徴的な取り組みをご紹介します。

### ■親子の笑顔があふれる「子育てひろば」～生協の子育てひろばに、年間10万組の親子がつどう

全国の生協では、親子が自由につどい、互いに学ぶ場として「子育てひろば」をつくる取り組みを進めています。子育てひろばとは、親子と一緒に参加でき、予約や登録などなしで誰でもふらっと立ち寄れる場です。いつ来ても、いつ帰っても良い場であり、現代の子育て中の親子にとって、互いに学びあい育ち合える貴重な場になっています。

取り組み開始からほぼ10年が過ぎ、2010年度は全国53生協418ヶ所で開催、参加した親子は10万組を超えました。ひろばに参加する親子を支えるスタッフ業務も、生協組合員自身が行います。各生協で研修や交流の中でスキルアップを図り、ひろばの充実に努めています。

子育てのしやすい地域づくりのために、児童福祉法に基づく地域子育て支援拠点事業として、自治体の委託を受けて子育てひろばに取り組む生協も5生協16ヶ所あります。

生協では、「子育てひろば」の他にも、父親やプレママ対象企画、学童期の子どもや若者支援、東日本大震災被災者への子育て支援、発達障がい児支援など幅広い支援に取り組んでいます。

#### ◆61ヶ所で子育てひろば開催 コーフこうべ

組合員がスタッフとなり、兵庫県内55ヶ所と大阪北地区6ヶ所で子育てひろばを開催しています。子育てひろばは、子どもを遊ばせながら、子育て中の悩みをみんなに相談できたり、子育てに役立つ情報が得られたりするなど、親と子の交流の場として多くの親子に利用されています。



#### ◆埼玉県内各地に避難している被災者の子育てを支援 生活協同組合さいたまコープ

福島県双葉町から埼玉県加須市の旧騎西高校に避難されている親子が過ごせる「ふたばひろば」を週5日、月1回土曜日には、地域の組合員や職員、NPO団体や埼玉大学の学生の皆さんと協力して、親子や子ども向けの「子どものあそびのひろば」や「ふれあい喫茶」を実施しています。また、加須市の子育て中の親子と避難されている親子の交流の場、加須市騎西コミュニティセンターでの子育てサロンふれあい広場を月2回開催しています。このほか、県内各地に避難されている皆さんの交流会に、会場やお茶・お菓子、食材などを提供しているほか、交流会でのお子さんの保育などにも協力しています。



親子でゆったり「ふたばひろば」



熊谷市での「ふるさと交流サロン」

#### ■JAでも「子育てひろば」を展開～農村部でも質の高い子育て支援を展開するJA秋田ふるさと「りんごちゃんひろば」

JA秋田ふるさとでは、横手市(秋田県)や地元保育所等が運営する地域子育て支援センターと連携して、子育てひろばを週5日実施しています。同敷地内にはJAの高齢者福祉施設もあり、地域の福祉エリアを形成しています。



約400㎡と秋田県横手市内最大級のスペースを有し、横手市内だけではなく、近隣市町村からも多くの親子が訪れる地域の中核的な「子育てひろば」となっており、JAならではの質の高い農業体験や食育活動等の取り組みが魅力となっています。

## ■労働者協同組合の子育て支援～地域とともに自らが立ち上げる子育て支援事業

労働者協同組合（ワーカーズコープ）でも、児童館・学童クラブ・障がい児デイサービスなどの子育て支援事業を全国 240 ヶ所以上（2012 年 1 月現在）で展開しています。自治体などの指定管理者として運営している事業もありますが、組合員達が地域の「これが必要！」という声を聞き、地域の人たちとともに立ち上げた子育て事業も数多くあります。地域の NPO や学識者とのネットワークづくりにも取り組んでいます。

子育て支援拠点を「子ども・保護者の必要と地域の必要に応える仕事おこしと社会連帯の拠点」として位置づけ、親が育ち、親とともに運営する子育て事業所の発展をめざして活動を進めています。

### ◆ヘルパー講座卒業→介護事業→子どもの生きる力を育む事業へ

鹿児島県にあるワーカーズコープの事業所「ほのぼの」は、介護ヘルパー講座の修了生たちが訪問介護事業所を立ち上げたところから出発し、その後、学童クラブや障がい児デイサービスなど、地域のニーズに応える事業を展開しています。「働きたい人に仕事があり、遊びたい・学びたい子どもが思いっきり遊び・学べる環境を作りたい」と話し合いながら出来た「ほのぼの」では、地域の農家の方々からも協力を得ながら、子ども達が畑作業や米作りなども行い、できた食材を使って自分達でおやつを調理したり被災した東北へ米を送ったりするなど、生きる力や思いやりの心を身につけています。



### ◆親や地域とともに立ち上げる障がい児デイサービス

2012 年 1 月現在、15 ヶ所で運営するワーカーズコープの障がい児デイサービス（障がいのある子ども達の放課後の居場所）。この多くでは、「障がいのある子どもと親の居場所がほしい」という家族の方々からの要望に応え、組合員が親や地域の方々と一緒に事業を立ち上げ、懇談会や学習会の開催・物件探し・資金集めを含めて皆が運営に関わっています。



子ども達の卒業後の就労創出も視野に入れながら、ワーカーズコープでは、障がいがある人もない人も暮らしやすい地域づくりに努めています。

## 【参考：国際協同組合年について】

### **○2012年は、国連が定めた国際協同組合年です**

国連は、2009年の第64回国連総会において、2012年を国際協同組合年（IYC＝International Year of Co-operatives）と定める決議を行いました。決議では、協同組合を「人々の経済社会開発への最大限の参加を促している」「持続可能な開発、貧困の根絶、都市・農村における様々な経済部門の生計に貢献できる事業体・社会的企業」と評価しています。

こうした評価の背景には、2007年の世界的な食料危機、2008年以降の金融・経済危機に対して、協同組合が耐久力・回復力を示したことについての積極的な評価があります。すなわち、協同組合が地域の経済に根ざしており、バブル経済とその崩壊の影響を最小限に抑えていることから、経済システムに安定性をもたらした、と指摘しています。

### **○国際協同組合年がめざすのは「協同組合の社会的認知度向上」**

国連決議は、IYCの目標を以下の通りにまとめています。

- ① 協同組合についての社会的認知度（ビジビリティ）を高める
  - ② 協同組合の設立や発展を促進する
  - ③ 協同組合の設立や発展につながる政策を定めるよう政府や関係機関に働きかける
- また、IYCのスローガンを「協同組合がよりよい社会を築きます」と定めています。

国連は、協同組合がよりよい経済・社会の建設に大きく貢献できると評価し、その発展を期するよう、各国政府・国民に訴えるため、IYCを定めました。

わが国の協同組合は、これを契機に、いま一度自らの使命・役割を再認識し、真摯に事業・活動を改革し、協同組合への参加の広がりや公共性の増進に努めています。

### **○市場原理だけで解決できない課題に協同組合の力を発揮**

わが国の経済・社会は市場経済を中心としており、市場の活力は今後も重要です。

しかし、わが国には、市場原理だけでは解決できない課題が数多くあります。例えば、過疎地などの地域社会の疲弊、安定的な食料供給、高齢者福祉、地域医療、就労機会の確保などの課題です。

組合員の願い・ニーズに応えることを使命とする協同組合は、これからも共助を通じてこうした課題の解決に挑戦していきます。

#### **【本件のお問い合わせ先】**

日本生活協同組合連合会 広報部 TEL03-5778-8106

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会 総務部 TEL03-6907-8040